

「肝・胆・膵の外科臨床」

葛西 洋一 北海道大学教授

佐藤 寿雄 東北大学教授

土屋 涼一 長崎大学教授

執筆協力者

佐々木英制 北海道大学助教授

西村 柳介 長崎大学講師

松代 隆 東北大学講師

イラスト

吉野 奈三 長崎大学講師

東京慈恵会医科大学教授

亀 田 治 男

外科臨床のなかでも、消化器疾患は大きな分野を占めているが、胃腸疾患とともに、肝・胆・膵疾患の外科的治療も極めて重要である。

胆道疾患については、従来から外科手術を基本的な治療として大きな役割を果たしてきたし、今後もその重要性は変わらない。また肝疾患の外科手術には著しい進歩がみられ、特に直接成績の向上は目覚ましいが、なお遠隔成績に問題がある。膵癌をはじめとする膵疾患の外科臨床についてもなお解明すべき点が多く残されている。

本書は肝・胆・膵疾患の外科臨床

に関して、この方面での第1人者である著者らが、病態、臨床像、診断の現状を解説し、外科手術について、その術式と問題点を明示したものである。

B5版、450頁という、このような書としては最も読みやすい体裁のなかに、豊富な内容が簡潔にかつ要点をとらえてまとめられており、活字や図表のバランスも適切である。特に113表、302図におよぶ挿入図表のなかには、貴重なX線写真や組織写真などが随所にみられ、内科医にとっても役立つところが大きい。特に外科術式については、長崎大学吉

野講師の詳細かつ美しいイラストが多数掲載され、本書の特色の1つとなっている。

また、最近多くの面で進歩がみられ肝・胆・膵疾患の検査法と、これらを含めての診断の手順もわかりやすくまとめられている。

外科治療の実際については、著者らの豊富な臨床経験に基づいた肝切除術や、胆嚢摘出術をはじめとする諸種の胆道手術、また膵切除術などとともに、術前・術後処置、術後合併症とその処置に参考となる点が極めて多い。また、最近の人工肝、肝移植、膵移植に関する記載にも注目すべきである。

文献は、特に1970年以後のものを中心にしてとりあげられているが、このことから著者らの新しい学問に向かう意気込みが感じられる。

このような多くの特色を備えた本書は、肝・胆・膵の外科臨床を知るのに最も好適なものであり、外科臨床を学ぶ者にとって必須であるばかりでなく、内科医をも含めて、肝・胆・膵の臨床に従事し、あるいはこれを学ぶ者にとって、大いに役立つ良書であると考えられる。

B5 頁450 図213 写真104 原色図
34 1979 ¥15,000 医学書院刊